

南相馬市牛越仮設住宅に行ってきました

井田かよ子のボランティア報告です

この4月2日(火)から4日(木)に福島県南相馬市へボランティアに行ってきました。今回も牛越仮設住宅です。

2日の朝5時に綾部を出発しました。南相馬市に着いたのは夕方6時でした。すぐに京都から持ってきたお米や水、卵などを各世帯に配布するための仕分け作業に入りました。

南相馬市に入ると、放射線量は0.276マイクロシーベルト(μSv)でした。綾部では0.05 μSv ですから、かなり高いことがわかります。

牛越仮設住宅には2回目の訪問です。ここには約400軒の住宅があり、放射線量が高い「小高地区」の方が多く入居されていました。

3日は朝5時の起床で女性は“丹後ばら寿司”づくりに頑張りました。できあがったお寿司とお米や水をそれぞれの家庭に届けましたが当日は、横殴りの激しい雨で

びしょびしょに濡れました。

配り終えたあと午後からは、南相馬市小高地区と最近通行解除になった浪江町福島第1原発立地町に隣接)に視察に行きました。



津波で流された漁船は田んぼに残されたまま



震災から2年以上もたっているのに漁船は田んぼに残されたままでした。よく見ると自動車や重機なども、津波がひいたままでした。放射線が高いためにそのまま放置されていたのです。時間が止まったままでした。

流された建材などのガレキの一部は所々に集めておかれていました。

田んぼはセイタカアワダチソウの枯れ葉が一面を覆っていました。ガレキの処分はもちろん放射能の除染もまだです。

津波で折れたままの電柱



請戸小学校、海から500メートルの所にありますが、津波が来るぞ！と、全員避難し無事でした。高台までは相当距離があります、日頃の訓練の成果が発揮されたことがわかります。教室の中には、子どもたちの所持品がそのままになっており、やっと先生たちが教室に入ることができたと聞きました。



干拓田はもともと海抜ゼロメートル地帯で大きな排水ポンプが設置されていました。ところが地震で地盤が沈下し、配水ポンプは津波で崩壊。この日朝からのひどい雨によりまた池の状態に。

放射線量が高いため、まる2年もがれき撤去に入ることができない。あまりにも長すぎるのではないのでしょうか。

原発事故は今の科学で収束できないことを目の当たりにしました。原発と人類は共存できないなら、即時に廃炉にすることが賢明な選択と感じました。